

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170100846		
法人名	有限会社 ティー・エイ・シー		
事業所名	オークヴィレッジ かるがも (郷ユニット)		
所在地	札幌市北区新川4条19丁目5-7		
自己評価作成日	令和3年12月15日	評価結果市町村受理日	令和4年4月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170100846-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103
訪問調査日	令和4年2月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったりとした流れの中で、安心と尊厳のある生活を保障され、個人が主体的な決定を行えるような様々な分野の活動、または機会を支援すると共に、地域において必要な福祉サービスを総合的に個人の状況に応じ提供されるよう援助している。又、家庭的な雰囲気の中で普通の暮らしを行う事によって生活の楽しさや、自信を持って感じて頂けるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は道央道新川ICから車で5分、バス停より徒歩数分と交通の便がよく「かるがも公園」に隣接し、近くにはスーパーや保育園、小学校、中学校、高校があり生活環境に恵まれている。鉄筋コンクリート造2階建て2ユニットで18名の利用者が入所している。建物内はバリアフリーで玄関ホールから浴室まで各部屋は温度差がない床暖房が整備され快適で、廊下は幅が広く車椅子移動や歩行と安全に配慮している。リビングには小上がりと多くの肘掛ソファ、長ソファを配置し、利用者はテレビを見たり、会話や昼寝など自由にゆったりと過ごしている。開所から20年目を迎えコロナ禍以前は、町内会や地域の行事に参加し良好な交流関係を継続している。昨年度はコロナ禍で中止となったが恒例となっている事業所主催の「かるがも祭り」の出店などに学童保育で交流がある小学生や地域住民で200名を超える参加があり、敬老会も兼ねている。介護経験が10年以上の職員が半数を占め、バランスの取れた勤務体制を組みやすく、利用者は安心して生活している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
I. 理念に基づく運営								
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に事業所理念を掲示し、職員は毎朝事業所理念等を唱和し理念の共有と共に実践につなげている。	各階フロアに事業所理念と介護理念を掲示し、職員は毎朝申し送り時に唱和して共有し、理念を書き込んだカードを常に携行しケアに反映させている。				
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ過で今は実践できていないが、以前は町内会の行事に参加したり地域ボランティアや学童保育の子供たち等交流している。	町内会に加入し、回覧板で町内の行事などを把握したり、事業所イベントの案内など情報を発信している。大きな畑の一部で野菜をつくり、残りを町内会に貸し出して交流継続に努めている。				
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症110番の家に登録をし、運営推進会議などにて理解を深めている。					
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ過で対面で行うことはしていないが、書面会議にて意見や要望をお聞きし運営に活かしている。	コロナ禍のため2か月毎（年6回）に書面会議で開催し、運営状況、入居者状況、行事や避難訓練予定などを書面で町内会長、利用者家族など関係者に報告し、意見や要望を運営に活かしている。				
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から施設運営に係る担当者や生活保護担当者等、市町村職員と情報交換をしながら協力関係を築いている。	市担当者には、運営状況を報告し、利用者の介護保険、生活保護などの提出書類で電話、メール、FAX、郵送などで指導・助言を得て協力関係を築いている。新規の生活保護利用者には来所や電話などで所在確認している。				
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議やミーティングなどで定期的に認知症ケアについて勉強会を行い、身体拘束をしないケアに努めている。	身体拘束適正化委員会を3か月毎に開催し、毎月の「かるがも会議」で身体拘束の弊害を研修し、スピーチロックなど不適切な言葉を使わないケアを実践し、身体拘束をしないケアに努めている。玄関は安全確保のため夜間施錠をしている。				
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルに基づき、職員相互で注意を払いながら入居者に不安を与えぬよう緊張感を持ってケアサービスに取り組んでいる。					

オークヴィレッジ かるがも（郷ユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在後見人制度を活用している方がおり、それぞれのスタッフが対応することにより学ぶ機会や活用について支援出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の方に不明な点等の確認を行いながら、わかりやすい説明と理解していただけるよう心がけています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やご家族来訪時に意見を聞いている。又、ご家族の意見などは記録に残し不安や苦情等についても職員間で話し合い対応している。	日々の会話や動作から利用者の意見、要望を把握するように努めている。家族には「かるがもだより」で利用者の生活の様子などを知らせ、意見、要望は主に電話で聞き取り、職員には朝の申し送り時に周知してケアに反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度スタッフ会議を開催し直接意見を聴取し運営に役立つか等を検討し反映するように努めている。	管理者は職員が日常いつでも意見や提案などを話しやすい環境を作っている。毎月スタッフ会議を開催して意見や提案について協議し運営に反映させている。夜勤シフトの柔軟な対応など職員の要望に答えるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護福祉士や実務者研修修了者等資格取得に応じて昇給する仕組みや勤続年数などに応じて昇給する仕組みを整備し、介護職員処遇改善加算、介護職員などの特定処遇改善加算を算定し、職員への支給を毎月行っています。（特定処遇改善加算金は令和2年1月より支給開始）		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人が自ら能力を再断言に発揮しやる気と働き甲斐を持って仕事に従事できるように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	メールや電話・ライン等にて交流を図りネットワークづくりに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の人柄や生活環境等出来る限り理解したうえで不安や要望をお聞きし安心して入居できるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人及び家族の意向や要望をお聞きすると共に施設の運営状況を説明し本人・家族が納得いかれるようなサービス計画を作成しサービスを提供している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の生活状況として、生活動作・食事・就寝・入浴・洗面・排泄・服薬等見極めた上で本人が過ごしやすい環境作りとサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自ら体を動かしたり、お手伝いをしたり職員とも関わりながら楽しく生活していただけるよう心がけている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ過でご家族に会えないので、ビデオ配信をしたり月1回新聞をお送りし施設内の状況を定期的にお知らせしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が大切にされてきた馴染みの方がいつでも気軽に来て頂けるように努めている。	毎月1回、感染対策をして訪問理美容で理髪を行って馴染みの関係が途切れないよう努めている。コロナ禍のため面会制限により家族の来訪が制限を受けているが利用者の帰宅願望には理解と協力をお願いしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で入居者同士が楽しく会話をしたり関わりあえる環境づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もできる事があれば相談・支援協力の意思をご家族にお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から本人との会話の中から思いやりや意向の把握に努めておりその他スタッフ同士でも情報交換をしながらその人らしい暮らしを送れるよう日々検討している。	入居時の利用者・家族からの聞き取りやアセスメントから利用者の生活歴を把握し、日常のしぐさ、動き、会話、家族の情報などから、個々の思いや意向を把握し職員で共有して、希望や意向に添うよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の生活内容やその他のサービス機関の情報収集等を行い日々変化してゆく状況の中・関わりの中で新しい以降の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の一日の過ごし方、心身状況、有する力等の4情報をスタッフ間で連絡・相談・報告しながら日々現状を把握できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の変化や家族の意見等、日々情報を共有し今後どのようにしたら良いのかを現状に添って計画作成を行っている。	利用者、家族の意向を反映させ、短期3カ月、長期1年毎に現状に即した介護計画を作成し、家族に説明(郵送)し同意を得ている。状況に変化があればその都度見直すこととしている。	コロナ禍の中家族と向き合った会話が出来なく、電話と郵送の為丁寧な説明を期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人、ご家族、医療機関等の意見交換しながら職員間で意見を出し合い作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じ、ご本人やご家族の要望に臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ過で密な意見交換は出来ないが、定期的に話を聞いたり意見交換する機会をもうけている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に、医師往診・看護師往診・歯科往診を行っているが、入居前からかかりつけ病院に受診されている方やご家族の希望に応じて受診できる。	利用者、家族の希望に添ったかかりつけ医に受診できるよう支援している。協力医は2週毎に往診し、看護師は週1回の健康管理や助言、3ヶ月ごとの採血、電話による24時間体制をを実施している。歯科医は2週毎に往診し、口腔ケアや治療を実践している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医療機関の看護師が週1回訪問し、日常の健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご本人に関する情報を医療機関に提供し家族と共に情報交換しながら回復状況等把握し退院後の支援に結び付けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化に掛かる指針」を作成し、事業所が対応できる得る最大のケアについて説明している。	入居時に「重度化にかかる指針」に基づき、利用者、家族に説明して理解を得ている。状況に変化が生じた場合は早い段階で家族や主治医などと話し合い、医療機関に入院するなど希望に添えるよう支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ全員が対応できるマニュアルを作成し、すぐ見れるところにある。又、急変・事故発生時速やかに対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震・水害等の避難方法や避難マップを掲示しており職員は日々確認出来る環境の下、災害時対応の備蓄の完備や火災や災害に伴う訓練を実施している。	消防職員の立会いはないが年2回の火災避難訓練（総合訓練と自然災害（水害）を実施している。地域住民は誘導、待機などで協力している。3～4日分の飲料水と食糧、小型発電機、照明、暖房用ポータブルストーブを備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格を尊重しプライバシーを損ねないよう丁寧な対応に心掛けている。	利用者の気持ちを大切にし、トイレに誘導するときは、他の人に気づかれないようにさりげなく言葉かけするなど、利用者のプライバシーや尊厳を損ねないよう努めている。利用者の写真など個人情報の掲載は入所持に説明し同意を得ている。重要書類は施錠が出来る書棚に適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から声掛けは優しく、本人の思いや希望が優先できるように二者択一等分かりやすい言葉かけで自己決定をして頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の体調や表情を確認しながら出来るだけ本人のペースで過ごして頂けるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服装を吟味し、一人ひとり身だしなみやおしゃれが出来るように声掛けをしながら支援している。		

オークヴィレッジ かるがも（郷ユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中は入居者同士楽しい雰囲気です。食事が出来るよう支援し、又食事準備や後片付けも他者とのコミュニケーションを楽しみながらお手伝いをしていただけるよう支援している。	献立と食材は業者に依頼し、職員が利用者の状況に合わせて調理をし、利用者は能力に合わせて食事準備や後片付けをしている。誕生日にはケーキなどで祝い、季節に合わせて旬の物で行事食を提供し、夏には菜園から収穫した野菜が食卓を飾り食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おやつや捕食も含め、利用者一人一人が1日全体で栄養や水分がどの程度摂れているのか記録し常に意識しながら関わっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時及び毎食後歯磨きの声掛けを行い力に応じて見守りや介助を行っている。定期的に歯科往診を受け口腔ケアをしている入居者もいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の記録で排泄チェックを行いパターンを把握し、声掛けや誘導にて自立に向けた支援を心かけている。	排泄表で排泄パターンを把握し、表情や態度に気をつけながらトイレでの排泄ができるようさりげなく誘導している。利用者の状況に合わせてリハビリパンツ、パッドなどを使い分け、夜間は巡回と鈴を使用し、失禁時には目立たないケアを実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別の記録にて排便チェックを行い、乳製品を多く取り入れたり水分量も視野に入れ家事活動や運動などにて身体を適度に動かす機会をもうけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の能力に合わせて洗身・洗髪を行って頂いたり、入居者の状況に合わせて2人介助の事もあ	入浴回数は決めておらず、入浴時間は10時からとし1日3～4人程度としている。2人介助、シャワー浴や清拭を状況に合わせて実践している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて自由に休息していただき、夜は安眠されるよう日中の活動の充実に配慮すると共に夜間の照明等環境にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬についてはファイルに綴じられていて、スタッフがいつでも確認できる状態にある。薬の変更や追加は記録や申し送り確認できる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々、充実して過ごせるよう身の回りの片付けやちょっとしたお手伝いをしたり、余暇を過ごせるよう個人に合わせた趣味や楽しみを提供している。		

オークヴィレッジ かるがも（郷ユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過で戸外に出ることは難しい。	コロナ禍により外出制限があり、菜園での土いじりや苗植え、水やり、野菜の収穫や隣接している「かるがも公園」での散策程度となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本的に施設で行っているが、本人が出来る場合は家族と相談し希望に応じ対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	それぞれ希望があった場合は、要望に沿った対応に努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日付や時間がどこにいても分かるように、カレンダーやかけ時計を多く設置している。又、壁には季節を感じるような飾り物があり定期的に張り替えている。	リビングと食堂は広くて明るく、床暖房でどの場所も温度差がなく穏やかに過ごすことができる。壁には季節毎にイベントに合わせた飾り付けや絵画を飾ったり、糸や紙で作った作品が上品に飾り付けられて家庭的な生活観を感じることが出来る。多くのテーブルやイスを配置し、利用者は会話をしたり、ラジオ体操、歌番組やDVD観賞、オセロなどで思い思いに楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方とお話が出来たり、一人に成れる椅子があったり、その時々で気分で自由に過ごして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の方に協力をして頂き、本人の好きな物（ぬいぐるみ、本、テレビ等）を置き、家族写真なども飾られたり居心地の良い空間となっている。	居室入り口には木製の名札があり思いの写真や写真をセットしている。大型の2段仕切りのクローゼット、パネル暖房が備え付けられ、利用者はテレビ、椅子、整理タンス、仏壇など好みのものを持ち込み、家族の写真などを飾って居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで、様々な場所に手摺りを設置しており、スタッフが常に見守りをしていて中で安全に生活できるよう工夫している。		